

学生の被服製作における布の色選択と雑誌のトレンドカラー

藤田 恵子

スカート製作の授業履修生に、秋冬スカートのトレンドカラーや、後期に製作したスカートの色の満足度などのアンケート調査を2008年1月、2009年1月におこなった。また、若年女性向け雑誌4誌の2007年10月号からの4か月間と、2008年10月号からの4か月間に掲載された、秋冬スカートのトレンドカラーの推移を割り出し、学生の感じるトレンドカラーとの比較をした。本研究は2007年1月におこなった調査¹⁾の継続調査である。

調査の結果、学生がトレンドカラーと回答した黒は2007年は65.7%だったが、2008年は77.0%に増加し、2009年には47.2%に減少している。スカート製作に黒を選択した学生の推移を2007年から順にみると41.4%、47.5%、30.5%となり、黒を嗜好色とする割合の推移に近似している。

雑誌に掲載された無地スカートの色の割合をみると、2007年には黒が全体の55%を超えていたが、その後4誌のうち3誌に減少傾向がみられる。学生が感じた2008年のトレンドカラーと雑誌掲載の分析の傾向は紫系の色相であり、JAFCAの分析²⁾と一致しており、雑誌もトレンドカラーの情報源になっていることがわかった。

キーワード：トレンドカラー，嗜好色，嫌悪色，トーン記号，JAFCA

1. 緒言

ファッションの色の傾向について、特に若年女性はトレンドカラーとしての情報を雑誌やマスコミを通じて敏感に感じ取り³⁾⁻⁵⁾、自身の嗜好色と融合させているのではないかと考える。特に近年の若年女性の黒に対する嗜好の傾向は、被服製作の授業を履修する学生の自ら着用する作品の黒色選択に読み取ることができた¹⁾。

学生が被服製作の授業で布の色選択をする際、雑誌などから感じ取ったトレンドカラーとしての色や嗜好色の影響を受け、結果的にはモチベーションや作品への満足度にも影響したのではないかと考え、引き続き前回の調査¹⁾を継続した。

若年層の黒嗜好の傾向は、どのように推移しているか、また、雑誌で掲載された色の影響をどの

ように受けているかという視点も付加した。

本研究では、以下のような点の検証を試みた。

学生がスカート製作で選択した布の色が、周りからどのように影響を受けているか。

被服製作において、学生の嗜好色やトレンドカラーによる布の色選択が作品の満足度にどのように影響するか。

雑誌に掲載された色の推移と、学生が感じるトレンドカラーは、同じような変化がみられるか。

2. 方法

筆者が担当しているスカート製作の授業を受講した履修生を対象に、嗜好色、トレンドカラー、製作したスカートの色に対する満足度、などについてアンケート調査をおこなった。

また、若年女性向けの雑誌4誌の2007年10

月号から翌年1月号までの4か月間と、2008年10月号から翌年1月号までの4か月間に掲載されたスカートの色の傾向を捉えて、雑誌による若年女性の衣服のトレンドカラーの推移を割り出した。

(1) アンケート調査

調査対象は、「ファッション造形」「ファッション造形」の1年生後期の授業でスカートの製作をした女子学生である。平均年齢は、2008年1月の61名の調査では19.1歳、2009年1月の36名の調査では18.9歳である。それぞれアンケートは授業最終日におこなった。

設問内容は、前回のアンケートと同様、履修する前の被服製作経験、製作したことのある作品名、履修決定理由、スカート着用頻度、ファッションの好き嫌い、身につけるものの嗜好色、身につけるものの嫌悪色、2008年1月の調査には2007年のトレンドカラー、2009年1月の調査には2008年のトレンドカラーなどを質問している。さらに製作したスカートについて、デザイン決定の理由、満足度、素材、模様、色の決定者、サンプルスカートの色の影響、色決定の理由、色の満足度、製作スカートのイメージなどについて回答を求めた。ただ、2008年のアンケートでは流行の参考にしている雑誌があったら、雑誌名を記述するという項目を加えている。

なお、アンケート調査において、学生が感じ取っているトレンドカラーや嗜好色の判定のために、次のようなカラーチャートを作成し、使用した。

PCCS(日本色彩研究所による日本色研配色体系)の色相から有彩色70色、無彩色5色の計75色を1色たて2.3cmよこ3.5cmのサイズにし、N7.0の台紙、よこ41.0cmたて29.0cmに貼り、番号をつけてカラーチャートにした。75色は、2:R(red), 6:yO(yellowish orange), 8:Y(yellow), 10:YG(yellow green), 12:G(green), 14:BG(blue green), 18:B(blue), 20:V(violet), 22:P(purple), 24:RP(red purple)の10色相、トーンはp(pale), ltl(light grayish), d(dull), lt(light), v(vivid), dp(deep), dk(dark)からなっており、無彩色はW(White), Gy(Gray-8.5, Gray-5.5, Gray-3.5), Bk(Black)の5色である。なお、光源は補助標準イ

ルミナントCとして調査を行った。

また、最終授業で完成したスカートの提出と共に、使用した残布たて10cmよこ10cmの提出を求め、PCCSの199色を用いて筆者がそれらの色判定をした。

学生は授業最終日にレポート提出をしている。レポートは、作品についての材料、材料費、総製作時間、製作工程などとともに、既製品のスカートについてのトレンドを販売員にインタビューなどして、市場調査をしていくことを課していることから、トレンドカラーについてのアンケートの回答は、実際に市場調査の結果が反映しているものとする。

(2)トレンドカラー調査

若年女性向け雑誌のうち比較的発行部数の多い『CanCam』『ViVi』『nonno』『JJ』の4誌を前回の調査と比較するために選び⁶⁾、2007年10月号～2008年1月号、2008年10月号～2009年1月号に掲載されたスカートの色について、PCCSの199色に最も近似した色を判定し集計した。『CanCam』『JJ』『ViVi』は月刊誌、『nonno』は月に2回発行されている。これらの雑誌は一般の若年女性が目にする頻度が高く、ファッションのトレンドカラーに関する情報源になり得ると考えた。

2008年1月調査対象の学生に、読んでいるファッション誌について調査した結果、上位から『nonno』『CanCam』『ViVi』『Soup』『Ray』『JJ』とあげており、本調査対象の4誌はベスト6の中に入っていることから、学生が日頃影響を受けている雑誌と考えられる。

3. 結果と考察

(1) アンケート結果

1) 被服製作経験

「ファッション造形」「ファッション造形」の授業を受講するまで、被服製作の経験があると回答した学生は2008年70.5%、2009年83.3%で2007年の調査の65.7%と比較すると漸増していることがわかる。特に2009年には、家でワンピース、ドレス、スカート、シャツ、浴衣、帯、ネクタイなどの回答がみられ、服作りのできる本校

卒業生である母親などから教わったとする学生が、数人いることも回答の数値に反映していると思われる。

また、本授業は選択科目ではあるが、衣料管理士と家庭科教職の資格取得の必修科目にもなっている。履修を決めた理由として、資格取得に関係なく自分の衣服を作りたかったと回答した学生が2008年29.5%，2009年36.1%となっており、2007年の41.4%と比較すると減少してはいるが、学生たちの衣服製作意欲は、資格取得のためとい

う動機の様を越えて潜在しており、本学での実習経験は、被服製作に対する潜在的欲求に応えるものであると言える。

2) 身に付けるものの嗜好色と嫌悪色

身に付けるものの嗜好色と嫌悪色について、複数回答のうち全体の8%以上になった回答を集計し、2008年と2009年を比較したものが図1である。なお、以下PCCSの色相とトーンを用いて説明する。Bk, Gy, Wを嗜好色として圧倒的に多くの学生が回答している。中でもBkは相変わらず高い支持率であるが、わずかに減少傾向がみられる。数値はそれ程高くないが2008年にはv2やlt24+も回答されており2007年の結果に酷似している。v2は2008年、2009年ともに嫌悪色としても回答されている。

また、dk6, v2, v24, lt24+は嗜好色でもあり、同時に嫌悪色でもあるところから、色についての好みが多様であることがわかる。色相では2: Red, 8: yellow, 24: redpurpleを嫌悪色とする傾向がみられる。また、Wの嗜好色としての割合が約半減していることや、Gy 8.5の無彩色が2009年の嫌悪色になっていることが2009年の特徴であろう。

3) 春夏と秋冬スカートの嗜好色比較

春夏と秋冬スカートの嗜好色を、2008年と2009年で比較したものが図2である。8%以上回答があったトーン記号をあらわしている。2008年にはBkとGy5.5, dk18が秋冬にも春夏にも多く選ばれているが、2009年にはそれらの色は秋冬にのみ選ばれており、春夏には登場していない。春夏に2008年2009年共に嗜好色になっているのが、W, p24+, p8+, p18+, v18, lt10+, lt18+, lt24+である。また、2007年2008年ともにBkが春夏にも嗜好色として登場していたが、2009年には選ばれていない。春夏のトーンをみると2008年2009年ともp, v, ltがあげられており、2007年にあげられたdpはみられない。また、dk, dp, Gy, Bkは秋冬に選ばれている。

トレンドカラーとして2008年には春夏にも選択されていたBkが、2009年の春夏には登場していないことや、秋冬のWが2009年には減少していることから、秋冬用には暗い、深い、シックなイメージが選ばれ、春夏用には薄い、さえた、浅

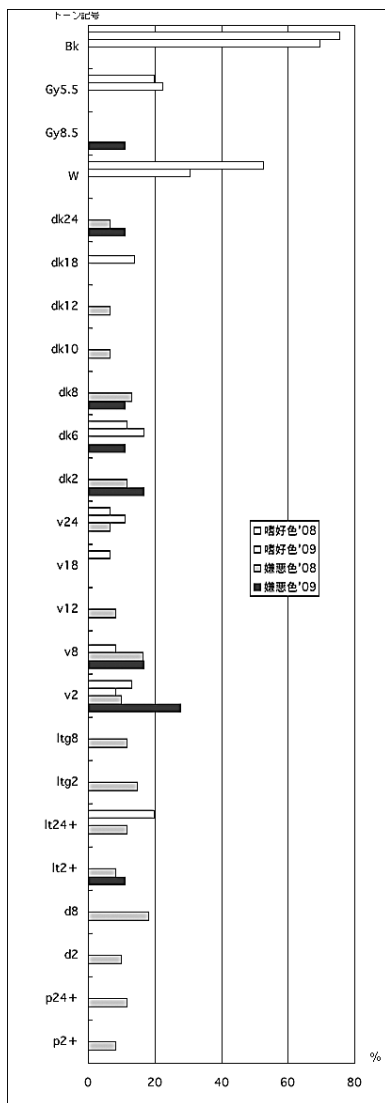


図1 身に付けるものの嗜好色と嫌悪色 (%)

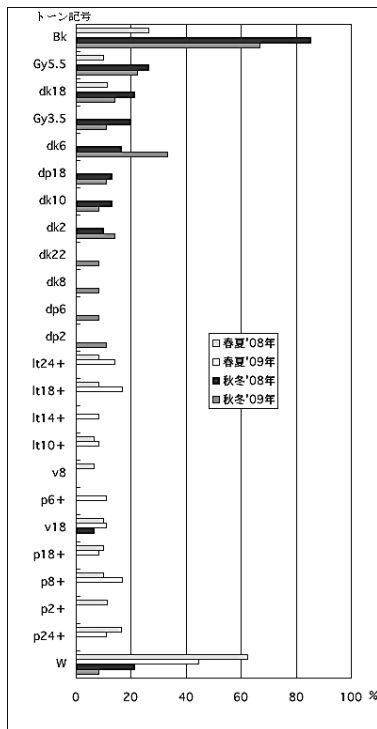


図2 春夏と秋冬スカートの嗜好色の比較(%)

いトーンが好まれており、季節による嗜好色の差異が明確になったと言える。

4) 製作したスカートの色

製作したスカートについて、スカートの色を決定した理由についての複数回答を2008年2009年の順にみていくと、「好きな色」24.6%、13.3%、「着たい色」31.9%、35.6%、「デザインにマッチ」13.0%、22.2%、「流行色」0%、2.2%、「その他」には「他の色にあわせやすい」「自分に似合いそう」「余りない色」「イメージを変えるため」「販売員に勧められて」「おしゃれな色」「友達と一緒にの色」などと回答されている。これらの回答から学生たちの布の選択には嗜好色やトレンドカラーだけでなく、他のいろいろな要因が絡んでいると言える。

また、黒の無地を選択して製作した割合を2007年、2008年、2009年の順にみると、41.4%、47.5%、30.5%と黒に対するこだわりが減少しているようにみられる。無地ではなく柄を選択したものについて、地の色を判定し無地の色に加算にてみると、2008年の黒は46.8%、2009

年は33.3%、白は2008年3.2%、2009年は0%、グレーは2008年6.5%、5.6%で、無彩色の割合が減少している。有彩色のうち10%以上を占めた色相の2008年をみると、18:blueが40.7%、2:redが11.1%、22:purpleが11.1%になっており、2009年をみると18:blueが31.8%、4:red-dish orangeが22.7%、6:yellowish orangeが18.2%、2:redが13.6%となっており、ブルーの人気が高いことがわかる。

無彩色以外のトーンをみると、2008年にはdkが44.4%、dkgが29.6%、dpが14.8%、pが7.4%、ltgが3.7%になっており、「暗い、暗い灰みの、濃い」を合わせて88.8%を占めている。2009年にはdkg27.3%、dp22.7%、g18.2%、ltg13.6%、dk9.1%、lt4.5%、sf4.5%となっており、「暗い灰みの、濃い、灰みの、明るい灰みの、暗い」を合わせて90.9%となっており、両年とも「さえた、明るい」はみられない。

5) 製作スカートのイメージについて

図3は製作したスカートのイメージについて、黒でスカートを製作したグループと黒以外の色のグループとで2008年と2009年の平均値を比較したものである。

黒グループが2008年、2009年ともに「硬い」「重々しい」「つまらない」「平凡」「暗い」「濁った」「冷たい」の値が高くなっており、マイナスのイメージ(「女性」「男性」を除き)であるが、2009年には「流行」「好き」の項目で黒がプラスの方に

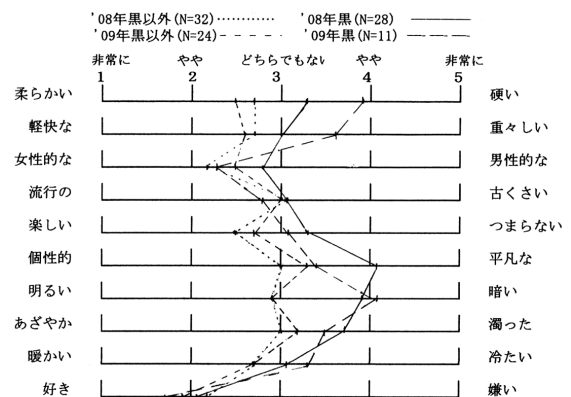


図3 黒と黒以外の色のイメージプロット

逆転している。また、2009年には黒グループが女性的と評価しており、黒色でスカートを作成した学生の方が、黒以外の色でスカートを作成したグループより、わずかではあるが黒を嗜好色やトレンドカラー、女性的として捉えていることが読み取れる。

6) 製作スカートの色の満足度

製作したスカートの色の満足度について2007年、2008年、2009年の順にみると、「とても気に入っている」42.9%、46.7%、48.6%、「やや気に入っている」37.1%、40.0%、37.1%、「どちらともいえない」18.6%、10%、11.4%、「あまり気に入らない」0%、0%、2.9%、「とても気に入らない」1.4%、3.3%、0%となっている。「とても気に入っている」「やや気に入っている」を合わせて2007年から順にみると、80.0%、86.7%、85.7%となり、80%以上の学生が満足しており、2008年、2009年は85%以上が自ら選択した布の色に対して満足しているのがわかる。

製作スカートの色を選択するとき、5種類のサンプルの色に影響されたかについての回答を、2007年、2008年、2009年の順にみると、「とても影響された」が、1.4%、1.6%、8.6%、「やや影響された」が21.4%、11.5%、14.3%、「どちらともいえない」が24.3%、21.3%、25.7%、「あまり影響されなかった」が25.7%、34.4%、40.0%、「全く影響されなかった」が27.1%、31.1%、11.4%であった。サンプルはセミタイトスカート、タイトスカート、ティアードスカート、ギャザースカート、フレアスカートでBkの無地とBkを基調とした柄あわせを必要としない柄物を採用している。「とても影響された」「やや影響された」が合わせて2007年から順に22.8%、13.1%、22.9%になり、値としてはそれ程大きくはないが影響された学生が毎年おり、1人でも製作意欲を促された学生がいたとしたらサンプルは重要であり、色については慎重に選択し、より学生が魅力的に感じ製作してみたいと思ってくれるように提示しなければならないと考える。

7) 製作したスカートのデザインと満足度

製作したスカートのデザインを2008年、2009年の順にみると、セミタイトスカート59.0%、

69.4%、フレアスカート13.1%、25.0%、ギャザースカート8.2%、2.8%、タイトスカート1.6%、2.8%、ティアードスカート11.5%、0%、その他6.6%、0%である。セミタイトスカートが圧倒的に多いのは、パターン製図を授業で説明したことによる影響と考えられる。

「ふだん自宅や学校でスカートをはきますか」の回答では2008年、2009年の順に、「ほとんどスカートだけ」が16.4%、23.7%、「時々はく」が63.9%、47.4%、「ほとんどスカートをはかない」が14.8%、26.3%、ふだんジーンズなどのパンツ類のみをはいている学生にとっては、実習のスカートがスカート着用のきっかけになる可能性も含んでおり、スカートの構成、製作手順、仕上げ法などを学ぶと同時に、自分のサイズや体型を知るきっかけになることを期待している。近年のヒップボーンの流行により、自身のジャストウエストの位置の設定、計測法、計測値は、学生にとって新しい情報であり、体型にフィットしたスカート製作は、新しい自分発見のような新鮮な感じだったようである。

製作したスカートの満足度について2008年、2009年の順にみると、「とても気に入っている」が37.5%、44.4%、「やや気に入っている」が41.1%、44.1%、「どちらともいえない」が19.6%、11.1%、「あまり気に入っていない」が1.8%、0%、「とても気に入らない」が0%、0%である。「とても気に入っている」と「やや気に入っている」を合わせると、78.6%、88.8%となり、製作したスカートに対して高い割合で満足しているのが分かる。

スカート製作以前の被服製作経験がなかった割合が2008年に29.5%、2009年に16.7%であったが、授業でのスカートは学生自身のサイズに仕上がったことと、着用できるものを自身の手で完成させることができた満足感が、この満足度の高さにあらわれているように思われる。中には就職活動で着用する予定であることを話してくれた学生もおり、自作であることが自信にも繋がるのではないかと期待している。

8) 学生が認識する秋冬スカートのトレンドカラー

2007年の秋冬スカートのトレンドカラーについては2008年に質問し、2008年の秋冬スカートのトレンドカラーについては2009年に質問したものの複数回答のうち、8%以上になったトーン記号を集計したものが図4である。Bk, W, Gy 5.5, Gy3.5の無彩色が両年ともにあげられている。有彩色で共通してあげられているのが, dk10, dk2, dk18, v18, v2である。2008年にはあげられていなかったトーン記号で2009年にみられるのが dp22, dp20, dk20, v20であり、色相の20: violetと22: purpleがトレンドカラーと捉えていることが読み取れる。

学生には最終授業日に提出するレポートに、今シーズンのスカートのトレンドについて、市場調査をしてくることを課題にしている。市場に出回っているトレンドカラーについても、ディスプレイを見たり、販売員にインタビューするなどの方法で調査しているはずであることから、少なからず回答に反映しているものと思われる。

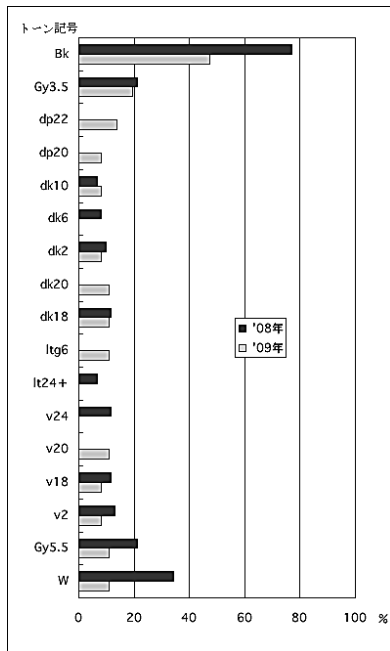


図4 学生が認識する秋冬下衣のトレンドカラー

(2) 若年女性向け雑誌に見るトレンドカラー

1) 4誌掲載秋冬無地スカートの色傾向

ltg18, ltg20, g18, g20, p18+, p20+に近似と判定した中には、前回同様に今回も実物はGyではないかと思われるものも多く含まれていた。明らかに同一のスカートでも写真により異なった色相に仕上がっていたり、雑誌によっても同一の商品の刷り上がりの色彩が異なっているものもある。対象とした雑誌ではほとんどの商品についてメーカー名が記載されており、読者が同一のものが購入できるようにカタログ化されていることから、読者が受ける影響を考えると、実物と写真による色差の詳細な調査が今後必要だと考える。

4種類の雑誌2007年10月号から2008年1月号までの4か月間、2008年10月号から2009年1月号までの各4か月間の無地スカート掲載の色について、トーン記号で図5に示した。2007年10月号から2008年1月号までを2007年とし、2008年10月号から2009年1月号までを2008年としてみていく。両年ともBkが相変わらず多く掲載されており、次にWも多い。dk18とdp18はデニムの紺色が多く、まだ人気のほどが伺える。2008年の傾向として、20: violet, 22: purpleなどの紫系の色相が多くみられ、JAFCA (JAPAN FASHION COLOR AUTHORITY の略)の2008年のトレンドカラー分析と一致している²⁾。また、これは、前述した学生が感じるトレンドカラーとも一致していることが分かる。また、Gyの後退もJAFCAの分析と一致しており、これは前述の学生のトレンドカラー分析とも一致している²⁾。

トーンではvのさえた色調が比較的多く掲載され、JAFCAの分析からも同様な傾向がみられる²⁾。

2) 4誌掲載秋冬無地スカートの色割合

図6は4誌に掲載された無地スカートのベスト4色を各誌毎にまとめて2007年と2008年の推移をみたものである。無地の着数の次にあげた()内は、黒色の割合を示している。

『JJ』は無地342着(44.4%), 382着(43.5%), 柄物201着, 168着である。『CanCam』は無地483着(48.2%), 618着(42.1%), 柄物200着, 262着である。『ViVi』は無地343着(46.4%), 376着(49.5%), 柄物159着, 378着である。

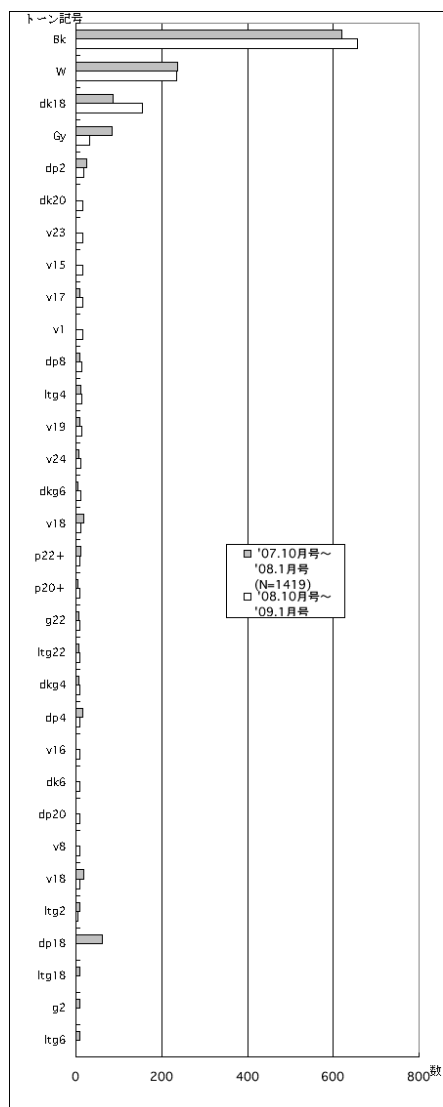
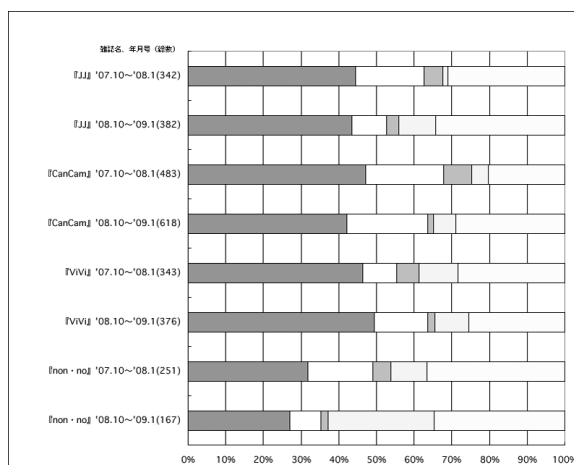


図5 4誌掲載秋冬無地スカートのトーン記号

『nonno』は無地 251 (31.9%) 着, 167 (26.9%), 柄物 68 着, 53 着である。4 誌の中では『ViVi』が 2007 年より 2008 年に黒と白の割合が増加したものの, 他の 3 雑誌では黒および白の掲載に減少傾向がみられる。また, 4 誌とも Gy が減少している。この結果について JAFCA の分析でも, 「黒と白が上位からはずれたのも今季の特徴²⁾」「無彩色系のグレーは前年非常に提案が増えていたが, 今シーズンは後退²⁾」と指摘しているところである。

ここ 1, 2 年のワンピースの流行はスカートやショートパンツを超える勢いであることから, 2007 年, 2008 年の 4 か月ずつワンピースの掲載数をみてみた。『JJ』 1,626 着, 838 着, 『CanCam』 770 着, 805 着, 『ViVi』 1,213 着, 988 着, 『nonno』 701 着, 818 着となっており, いずれもスカートの数を上回っていることからワンピースの流行が数の上でも確認できた。スカートに比較すると色の特定が困難なほどさまざまな色彩で表現されている印象がある。

図6 4誌掲載秋冬無地スカートの色の割合
—'07年10月号~'08年1月号,
'08年10月号~'09年1月号—

4. まとめ

今回の調査は, 2007 年にスカート製作を履修した学生 70 名にアンケート調査をした¹⁾その後の継続調査である。今回は, 2008 年 61 名, 2009 年 36 名であり, 前回と同様のアンケート内容である。結果, 黒に対して身につけるものの嗜好色と回答した学生が 2008 年 75.4%, 2009 年は 69.4%, 黒が秋冬スカートのトレンドカラーと回答した学生は, 2008 年 77.0%に対し, 2009 年 47.2%に減少している。実際, 黒でスカートを製作した学生は 2008 年 47.5%から 2009 年には 30.5%に減少している。

また, 前回の 2006 年 10 月号~ 2007 年 1 月号の調査¹⁾に続き, 雑誌 『JJ』 『CanCam』 『ViVi』

『nonno』4誌に掲載された無地スカートの色色の調査について2007年10月号～2008年1月号、さらに2008年10月号～2009年1月号を同様の方法で調査をし、雑誌掲載のトレンドカラーの推移をみた。その結果、黒の掲載の割合をみると『JJ』では44.4%から43.5%に、『CanCam』では48.2%から42.1%に、『ViVi』では46.4%から49.5%に、『nonno』では31.9%から26.9%になっている。『ViVi』では3.1%の増加がみられるものの、他の3誌では減少傾向がみられる。また、白、グレーともに減少しており、無彩色の減少傾向がみられると言えよう。

黒色掲載の高い割合は、読者に依然として黒がトレンドカラーであることを印象付けているが、同時にトレンドカラーとして後退していることも感じる情報源になっていると言えるのではないだろうか。

また、2008年のトレンドカラーとして学生の回答では紫系の色が指摘されており、これは雑誌の掲載色でも同様の傾向がみられた。またJAFCAでも紫系の色の流行を分析していることから、学生がトレンドカラーの情報源の一つとして、雑誌も参考にしているのではないかと考える。

学生たちが、スカートの布の色を選択した理由について、「着たい色」「デザインにマッチ」「好きな色」「あわせやすい」「自分に似合いそう」「販売員に勧められて」「イメージチェンジのため」「明るく見える」「流行色」「一般的」「珍しい色」など

と回答しており、嗜好色やトレンドカラーだけではなく、他にいろいろな要因が絡んでいることがわかった。

製作したスカートの色についての満足度について、「とても気に入っている」「やや気に入っている」とした学生が2008年86.7%、2009年85.7%におよんでいる。また、製作スカートについて「とても気に入っている」「やや気に入っている」とした学生が2008年78.6%、2009年88.8%であることから、自ら選んだ色で製作した作品の満足度は高い傾向にあると言える。

引用文献

- 1) 藤田恵子「学生の被服製作における布の色選択とトレンドカラー」『東京家政学院大学紀要』(2007年)47号,41-48頁
- 2) 大野礼子「マーケットカラー動向」『流行色』(日本ファッション協会 流行色情報センター, 2009年)556,40-47頁
- 3) 『LADIES' WEAR 2006 AUTUMN-WINTER』(日本流行色協会, 2005年)2-7頁
- 4) 丸山れいこ「マーケットカラー動向」『流行色』(日本流行色協会, 2005年)542,12-19頁
- 5) 出井文太「JAFCA アップデートカラー」『流行色』(日本流行色協会, 2006年)545,42-45頁
- 6) 日本雑誌協会ホームページ http://www.j-magazine.or.jp/data_001/woman_2.html 2007/2/21

(2009.3.26 受付 2009.5.20 受理)